

平成30年度シラバス

児童学科 4年次

番号	科目名	項
2111	自然科学概論	2
2220	児童社会学(1)	3
2221	児童社会学(2)	4
2222	児童教育学演習	5
2223	特別支援教育論	7
2226	人権教育論	8
2335	国語科教育法	9
2336	社会科教育法	10
2337	算数科教育法	11
2338	理科教育法	12
2340	音楽科教育法	13
2343	体育科教育法	14
2345	特別活動の指導法	15
2358	生徒指導	16
2359	教育相談	17
2360	教職実践演習(幼・小)	18
2361	教育実習(小)	19
2362	事前事後指導(小)	20
2363	学校教育体験実習 I (小)	21

番号	科目名	項
2364	学校教育体験実習 II (小)	22
2372	相談援助	23
2373	児童家庭福祉(1)	24
2374	児童家庭福祉(2)	25
2384	家庭支援論	26
2389	保育相談支援	27
2396	保育実践演習	28

【2111】 教養科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
自然科学概論		講義	比内 馨	4年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○		
授業概要						単位認定の方法と フィードバックの有無
各自、『人類を変えた大発見』を予習段階で読んでおき、事前に発見の物語とかエピソードを確認しておくのが望ましい。授業では、科学的発見の前後で何が変わったのか、あるいは科学的とは何なのかについて触れる。						期末試験 70% 有
						期末レポート —
						授業内試験 —
						授業内提出物 30% 有
						授業内活動 —
						その他 —
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		○	◎	—	—	
当該科目のキーワード		科学の特徴	論理的思考、科学的思考	—	—	
授業時間外学修の指示		講義前日の予習90分及び当日の復習90分で、各回の到達目標を十分に理解するように努めること。				
授業の到達目標		目標：自然科学の各分野を代表する科学的発見を概括して、科学の特徴を理解すること。 テーマ：科学的な見方とは何か。				
単位認定の要件		各回で与えられたテーマに関するレポート30%と本試験70%による評価で、合計60点以上が合格。				
単位認定方法へのフィードバック		期末試験は採点し模範解答と一緒に返却。レポートは採点して返却し、授業中に解説する。				
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容			
		1	第1章 物理学（振り子の等時性の発見ほか）			
		2	第1章 物理学（赤外線と紫外線の発見ほか）			
		3	第1章 物理学（電子の発見ほか）			
		4	第2章 生物学（進化の発見ほか）			
		5	第2章 生物学（ウイルスの発見ほか）			
		6	第2章 生物学（DNAの発見ほか）			
		7	第3章 化学（リンの発見ほか）			
		8	第3章 化学（元素の周期性の発見ほか）			
		9	第3章 化学（原子の崩壊の発見ほか）			
		10	第4章 天文・宇宙物理学（木星の衛星の発見ほか）			
		11	第4章 天文・宇宙物理学（火星の運河の発見ほか）			
		12	第4章 天文・宇宙物理学（ビッグ・バンの発見ほか）			
		13	第5章 医学（予防接種の発見ほか）			
		14	第5章 医学（炭疽菌の発見ほか）			
15	第5章 医学（ロボットミーの発見ほか）					
教科書・教材		小谷 太郎著『人類を変えた科学の大発見』（中経出版）				
参考書・参考文献等		中山 茂著「パラダイムでたどる科学の歴史」（ベレ出版）、池内 了著「自然を解剖する」（NTT出版）、柳瀬 睦男著「現代物理学と新しい世界像」（岩波現代選書）、「科学入門」（勁草書房、武谷三男著）、「科学の哲学」（岩波新書、柳瀬睦男著）				
履修上の注意等		『科学的とは何か』を常に意識しながら、授業に臨んで下さい。レポートの様式は、縦A4版横書きでお願いします。				

【2220】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
児童社会学(1)		講義	本山 敬祐	4年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	△	
授業概要			本講義では、テキストの輪読を通じて教育社会学の視点から教育において語られる様々な「当たり前」を問い直す視点や方法を身に付けることを目的とする。			単位認定の方法と フィードバックの有無
						期末試験 ー
						期末レポート 50% 無
						授業内試験 ー
						授業内提出物 ー
						授業内活動 50% 有
						その他 ー
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		◎	◎	○	○	
当該科目のキーワード		教育社会学	批判的・複眼的思考	問い直す力	問題解決能力	
授業時間外学修の指示		テキストの該当箇所を熟読し、質問や論点を持ち寄ることを参加の前提とする。発表者は発表資料を作成し、講義前に担当教員の指導を受けること。各回180分程度の予習復習を必須とする。				
授業の到達目標		①：教育社会学の視点や考え方の基礎を理解する。 ②：身に付けた視点や考え方をもとに、具体的な教育問題の背景を理解する。 ③：教育問題について批判的に議論する作法の基礎を身に付ける。				
単位認定の要件		上記①～③の合計が60点以上。				
単位認定方法へのフィードバック		授業内活動に対する形成的評価は随時行う。				
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容			
		1	ガイダンス			
		2	教育社会学と隣接諸学			
		3	学力の獲得は平等なのか？			
		4	高等教育への進学とジェンダー			
		5	高学歴社会における教育機会と費用負担			
		6	学校に「行っていない」子どもたち			
		7	貧困世帯の子どもたち			
		8	学校の外で学ぶ子どもたち			
		9	「英語は全員が学ぶもの」という自明性を疑う			
		10	部活動は学校において合理的な活動か？			
		11	子どもの安心・安全を脅かす「教育」			
		12	「いじめ」問題がつくる視覚と死角			
		13	少年犯罪についての認識とメディア			
		14	少子高齢化社会と教育の課題			
		15	まとめ			
教科書・教材		片山悠樹ほか（2017）『半径5メートルからの教育社会学』大月書店。				
参考書・参考文献等		・日本教育社会学会編『教育社会学研究』（一部を除きJ-STAGEから閲覧可能）。 ・日本教育社会学会編（2017）『学問としての展開と課題』（教育社会学のフロンティア1）岩波書店。 ・友枝敏雄ほか（2017）『社会学の力——最重要概念・命題集』有斐閣。				
履修上の注意等		授業時間中の積極的な参加が求められるため、授業時間外の学修を怠らず参加すること。また、時間割に余裕がある場合は、他学年の学生の履修も可とする。				

【2221】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
児童社会学(2)		講義	本山 敬祐	4年次	後期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
				○	△		
授業概要			本講義では、児童社会学(1)の内容やこれまでの学習を踏まえ、各自の関心に基づく探求的な学びの成果を発表し合い、批判的かつ創造的な対話を通じてそれぞれの研究を進める場とする。また、社会科学における隣接分野の手法の基礎を学ぶことで、卒業研究の仕上げとしてこれまでの研究プロセスを見直し、卒業研究の質を高める。			単位認定の方法と フィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	50% 無
						授業内試験	—
						授業内提出物	—
						授業内活動	50% 有
						その他	—
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		○	◎	○	◎		
当該科目のキーワード		社会科学	批判的・創造的対話	研究倫理	研究成果の発表		
授業時間外学修の指示	授業時間で発表される資料について、発表者は事前に資料を配付し、参加者は目を通して議論に参加する準備をすること。各回180分程度の予習復習を必須とする。						
授業の到達目標	①：教育に関する社会科学的な問いを立て、望ましい調査方法が選択できる。 ②：自身の研究成果を他者にわかりやすく発表できる。 ③：他者の研究成果に対し、批判的かつ創造的な対話ができる。						
単位認定の要件	上記①～③の合計が60点。						
単位認定方法へのフィードバック	授業内活動に対する形成的評価を授業時間内で行う。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	ガイダンス					
	2	リサーチ・クエスチョンをたてる・仮説を検証する					
	3	文献リサーチの方法論					
	4	社会科学のリサーチ・デザイン：事例分析					
	5	社会科学の手法①インタビュー					
	6	社会科学の手法②言説分析					
	7	説明の枠組み					
	8	研究倫理					
	9	リサーチ結果をまとめ、伝える					
	10	研究報告会① Aグループ					
	11	研究報告会② Bグループ					
	12	研究報告会③ Cグループ					
	13	研究報告会④ Dグループ					
	14	研究報告会⑤ Eグループ					
15	まとめ						
教科書・教材	適宜資料を配布する。						
参考書・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤修一郎(2011)『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会。 ・久米郁男(2013)『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣。 ・野村康(2017)『社会科学の考え方』名古屋大学出版会。 						
履修上の注意等	社会科学的なアプローチに関心のある学生の参加を求める。具体的な授業の進め方については、受講者数に応じて決定する。また、時間割に余裕がある場合は、他学年の学生の履修も可とする。						

【2222】 専門教育科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
児童教育学演習			演習	長尾 明義	4年次	通年	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
授業概要			児童の教育に携わる教育者として必要な資質や能力を習得できるようにするために、児童を取り巻く様々な問題やトラブルを想定し、直面した場合にどう判断し、どのように対応すればよいかについて考え実践的な指導力の向上を図る。授業においては、各自の考えを持ちながらグループで解決方法や望ましい対応のあり方などを意見交換したり、割演技などの演習を通してより良い指導のあり方を探る。この演習の根底にあるものは「児童理解」の大切さを実感することにある。児童一人一人のよさや可能性を引き出し、成長・発達を扶けるという教師の役割について演習を通して習得させたい。		期末試験	—	
到達目標の分類			《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標			専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
当該科目のキーワード			基本的な知識	問題解決能力・コミュニケーション	—	◎	
活用・課題解決			授業計画に示された各内容を毎回45分予習すること。当日の復習を45分行い、自分なりの考えや対応についてしっかり持つように努めること。				
授業の到達目標			限りなく児童と目線に合わせ、児童のために前向きに解決しようと努力することができる教師を目指して ①教師としての思いや願いをもち、児童の心に届くように話すことができる。 ②児童の引き起こしている問題や様々なトラブルの原因や実態を調査し、担任の立場で対応を考えることができる。 ③他の学生との意見交換や役割演技などを通して、協力し合い、前向きに問題の解決の方法を探ることができる。 ④児童一人一人には、それぞれによさや可能性があるという教師観をもち、様々なケースにおいて適切な言葉かけができる。				
単位認定の要件			到達目標①～④が6.0点以上				
単位認定方法へのフィードバック			レポート内容をチェックし、必要があれば助言する。				
授業計画 (各回の内容や到達目標)			回	内 容			
			1	第1章 本演習について ねらい・授業の進め方・演習 (教育的な実践力・児童理解・課題解決力)			
			2	第2章「○年生の担任になった。児童に、思いや願いを語れ・構想」(コミュニケーション・児童理解・教育観)			
			3	第2章「○年生の担任になった。児童に、思いや願いを語れ・発表」。講評(相互交流・児童理解・教育観)			
			4	第3章「学級通信を発行せよ・構想」児童・保護者・教職員(コミュニケーション・教師観・使命感・発信)			
			5	第3章「学級通信を発行せよ」発行した学級通信について意見交換(コミュニケーション・教師観・使命感・発信)			
			6	第3章 学級通信の機能・留意点について 意見交換 講評 (コミュニケーション・課題解決力)			
			7	第4章 「いじめ」の発生件数・原因について述べよ(情報リテラシー・課題意識)			
			8	第4章 「いじめ」が発生しない学級づくりについて。個→グループ→個(問題解決能力)			
			9	第4章 「いじめ」が発生した時の対応を述べよ。個→グループ→個(問題解決能力)			
			10	第4章 「いじめ」に関連のある法規と対応について調査し発表せよ。(情報リテラシー)			
			11	第4等 いじめている児童・いじめられている児童・傍観している児童に指導しなさい。(役割演技・児童理解)			
			12	第5章 「学校へ行きたくない」という児童への対応を考え、話し合い、発表せよ。(課題解決力)			
			13	第5章 「不登校の実態・原因・対応」について調査し、発表せよ。(情報リテラシー・コミュニケーション)			
			14	第5章 不登校の児童と面談せよ。(役割演技・意見交換・よさや可能性)			
			15	第6章 課題について自分の考えを記述せよ。レポート提出(問題解決能力)			
教科書・教材			教科書は使用しない。適宜資料を配布する。				
参考書・参考文献等			◇「THE学級通信」(明治図書 堀 裕嗣編) ◇「THE学級経営」(明治図書 堀 裕嗣編) ◇「子どもが伸びる『言葉かけ』」(明治図書 清水 俊皓著) ◇文部科学省の統計 ◇国立教育政策研究所の資料				
履修上の注意等			課題意識や問題意識をもち書物やICT等を活用して調べ、自分なりの考えをもちましょう。				

【2222】 専門教育科目	授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
児童教育学演習	演習	長尾 明義	4年次	通年	児童学科

--	--	--	--	--	--

	回	内 容
	授業計画 (各回の内容 や到達目標)	16
17		第7章 「暴力を振るう低学年児童の増加が問題になっている」その要因とあなたの対応を述べよ。レポート。
18		第7章 暴力によるトラブルを未然に防ぐために、教師が普段から心掛けなければならないこととは。
19		第8章 児童を伸ばす「言葉かけ」について考える(事例・性格面) 役割演技を通して考える。
20		第8章 児童を伸ばす「言葉かけ」について考える(事例・性格面) 役割演技を通して考える。
21		第8章 児童を伸ばす「言葉かけ」について考える(事例・性格面) 役割演技を通して考え、発表しあう。
22		第8章 児童を伸ばす「言葉かけ」について考える(事例・行動面) 役割演技を通して考える。
23		第8章 児童を伸ばす「言葉かけ」について考える(事例・行動面) 自分の考えをレポートにまとめる。
24		第8章 児童を伸ばす「言葉かけ」について考える(事例・学習面) 役割演技を通して考える。
25		第8章 児童を伸ばす「言葉かけ」について考える(事例・学習面)
26		第9章 児童の絵画作品を評価せよ。誉めどころを指摘せよ。
27		第9章 児童の絵画作品を評価せよ。誉めどころを指摘せよ。
28		第10章 最終号となる「学級通信」を発行し児童一人一人のよさを記述せよ。
29		第10章 最終号となる「学級通信」を発行し児童一人一人のよさを記述せよ。発表。提出。
30		第10章 児童一人一人のよさや可能性を見つけ伸ばす教師に

--	--	--

【2223】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
特別支援教育論		講義	土岐 智	4年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	△	
授業概要		<p>「障害者の権利に関する条約」の批准や「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行などの近年の制度上の動向や学校教育の現状を踏まえ、インクルーシブ教育システム構築における特別支援教育の充実・推進に資するための基本的な知識・支援方法等を中心に授業を進めます。</p> <p>授業の展開にあたっては、多様な見方・考え方に触れ視野の拡大を図るため、講義のほか発表やディスカッション等の場面を適宜設けます。</p>				単位認定の方法とフィードバックの有無
		期末試験	—			
		期末レポート	50%			無
		授業内試験	—			
		授業内提出物	30%			有
		授業内活動	20%			有
		その他	—			
到達目標の分類	<p>◎印は中心となる目標</p> <p>○印は関連・付帯する目標</p>	<p>《知識・理解》</p> <p>専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。</p>	<p>《汎用的技能》</p> <p>コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。</p>	<p>《態度・志向性》</p> <p>自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。</p>	<p>《総合・統合》</p> <p>獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。</p>	
当該科目のキーワード	インクルーシブ教育システム	カウンセリングスキル		協働		課題発見・探求力
授業時間外学修の指示	予習及び復習のそれぞれ90分程度を充て各回の内容を理解するように努めること。また、授業内容を身近な事象と照合するなどし実際の観点を併せて理解を深めること。					
授業の到達目標	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、学習上又は生活上の困難を理解し、個々の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法の理解を目指します。					
単位認定の要件	授業内活動、授業内提出物、期末レポートの総計が6.0点以上					
単位認定方法へのフィードバック	授業内提出物については助言等のコメントを添え返却します。授業内活動（プレゼンテーション及びディスカッション等）については逐次、助言・解説をします。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	Normalizationの理念とインクルーシブ教育システム誕生の歴史的経緯				
	2	インクルーシブ教育システム構築に至る日本の教育制度の変遷				
	3	特殊教育と特別支援教育の相違点及び特別支援教育に関わる制度改正のポイント				
	4	特別支援教育の場と教育・支援内容				
	5	視覚障害、聴覚障害の生活・学習の困難と教育内容				
	6	知的障害、肢体不自由及び病弱・身体虚弱の特性と生活・学習上の困難と教育内容				
	7	LDの特性と支援				
	8	ADHDの特性と支援				
	9	ASDの特性と支援				
	10	知覚過敏に関わる困難に対する支援				
	11	特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制の構築				
	12	個別の支援計画・指導計画等作成の目的と活用方法				
	13	保護者との協力関係を構築するために必要な情報及び相談の基本				
	14	各ライフステージにおけるニーズと連続性のある支援				
15	教員の専門性と校内外の協働					
教科書・教材	「特別支援教育の基礎・基本 新訂版」（独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所）ジース教育新社					
参考書・参考文献等	<p>小学校学習指導要領</p> <p>特別支援学校小・中学部学習指導要領</p> <p>特別支援教育に関する中央教育審議会答申「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」</p>					
履修上の注意等	5回目以降の指定した内容についてスライドを作成し（提出）プレゼンテーションをしていただきます。					

【2226】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
人権教育論		講義	佐々木 隆	4年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	△	
授業概要			あなたがあなたらしく人間として良く生きるための条件が人権です。一般就職でも、小学校でも、幼稚園でも、保育園でも、必要なのが人権です。人権侵害の一番身近にあるものがいじめです。どのようにいじめを避けるかよりも、いじめとは何かをあきらかにして、そこからさまざまな人権の問題へと述べてゆきます。			単位認定の方法と フィードバックの有無
						期末試験 ー
						期末レポート ー
						授業内試験 50% 有
						授業内提出物 ー
						授業内活動 50% 有
						その他 ー
到達目標の分類		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
		◎		○		○
当該科目のキーワード		知る権利		対話		自己実現
授業時間外学修の指示		新聞や新しいニューステキストを読んでしておくこと。予習90分復習90分。				
授業の到達目標		自分自身の夢を実現するため、自分とかかわる子どもから老人までの人を傷つけず守ってあげられるように一歩でも進むこと。				
単位認定の要件		試験で60点以上を取ること。				
単位認定方法へのフィードバック		質疑応答で評価解説する。				
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容			
		1	人権とはなにか。男女差別と男女平等について、何を学んできたか。			
		2	憲法の保障する基本的人権とは何か、自然権。			
		3	知る権利とは何か。知らぬが仏ではない、知らないと大変なことになる。			
		4	平等とは何か。画一化と差別化、男女の違いについて。男女平等と性差別			
		5	差別とは何か。ハンディキャップを認める事。			
		6	自由という権利、職業選択の自由、日本語と外国語の自由という言葉の意味の違い。			
		7	表現の自由と知る権利			
		8	自由平等博愛という概念の相互関係			
		9	正義と友情、開かれた社会と閉ざされた社会			
		10	権利と義務の関係 生きる力というけれど、力がなければ生きることが許されないのか。福祉の問題			
		11	権利の歴史、権利という考えはいつ頃できたのか。			
		12	権利の歴史、権利という考えはいつ頃できたのか			
		13	法の目的は自由だというJ. ロックの思想。共通善としての人権			
		14	問題解決のための対話			
		15	まとめ。試験。講評			
教科書・教材		なだいなだ「いじめを考える」岩波ジュニア新書				
参考書・参考文献等		吉野源三郎「君たちはどう生きるのか」岩波文庫 本学紀要に書いた拙論を配布する				
履修上の注意等		必ず発言すること				

【2335】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
国語科教育法		演習	船水 周	4年次	通年	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
			○	○			
授業概要			4年次の国語科教育法は、文部科学省の指針である『小学校学習指導要領解説国語編』を確実に理解して、学習指導が効果的に展開できるように教材を研究(作成)したり、教育実習を想定して学習指導案を作成したりすることをねらいにしている。国語科教育は学校における言語教育の基盤である。小学校教師は誰でも国語教師である。子どもに力が付く国語授業を創り出すために、国語教師としての力量を高める努力・工夫を続けてほしい。			単位認定の方法とフィードバックの有無	
			期末試験	—			
			期末レポート	30%	無		
			授業内試験	20%	有		
			授業内提出物	30%	有		
			授業内活動	20%	有		
			その他	—			
到達目標の分類	《知識・理解》 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		《汎用的技能》 コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		《態度・志向性》 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		《総合・統合》 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	◎		○		○		
当該科目のキーワード	学習指導要領・生きる力		思考・判断・表現		教材研究(作成)		
授業時間外学修の指示	学修時間を90分確保し、各回の目標達成に努める。内訳は予習1/3(30分)、復習2/3(60分)。						
授業の到達目標	①『小学校学習指導要領解説国語編』のポイントを確実に理解する。 ②国語授業が効果的に展開できるような教材を作成する。 ③教育実習を想定して、実践的な学習指導案を作成する。 ④学習課題についてグループごとに調べたり、考えたり、話し合う。						
単位認定の要件	合計60点以上						
単位認定方法へのフィードバック	①時間内に教師が答えを発表し学生に自己採点させる。②提出物や活動はICTの活用・口頭により解説する。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	16	【学習指導要領研究1】「改訂趣旨・要点」「教科の目標」「学年の目標」 ※新旧学習指導要領対照					
	17	【学習指導要領研究2】「内容構成・領域構成」等 ※新旧学習指導要領対照					
	18	【学習指導要領研究3】「第1学年及び第2学年の目標と内容」 ※新旧学習指導要領対照					
	19	【学習指導要領研究4】「第3学年及び第4学年の目標と内容」 ※新旧学習指導要領対照					
	20	【学習指導要領研究5】「第5学年及び第6学年の目標と内容」 ※新旧学習指導要領対照					
	21	【学習指導要領研究6】「指導計画の作成と内容の取り扱い」 ※新旧学習指導要領対照					
	22	【国語教材作成1】漢字の基本(部首・筆順・画数、熟語他) 漢字の形・音・義 ※ICTの活用					
	23	【国語教材作成2】「ことわざ・格言・慣用句・故事成語」「漢文」 ※ICTの活用					
	24	【国語教材作成3】「接続語の種類と使い方」「句読点の打ち方」「助詞の用法」 ※ICTの活用					
	25	【国語教材作成4】「敬語の使い方：丁寧語・美化語、尊敬語、謙譲語I・II」 ※ICTの活用					
	26	【国語教材研究1】表現の工夫①「文学的文章」 ※ICTの活用					
	27	【国語教材研究2】表現の工夫②「説明的文章」 ※ICTの活用					
28	【国語教材研究3】表現の工夫③「短詩型文学」 ※ICTの活用						
29	【学習指導案作成1】これまでの学習内容をもとに、実践的な学習指導案を作成。 ※ICTの活用						
30	【学習指導案作成2】学習指導案の完成及び発表。〈解説とまとめ〉 ※ICTの活用						
教科書・教材	文科省『小学校学習指導要領解説国語編』水戸部修治『小学校新学習指導要領ポイント総整理国語』(東洋館、2017)						
参考書・参考文献等	田近洵一・大熊徹・塚田泰彦編『小学校国語科授業研究第四版』(教育出版、2009)全国大学国語教育学会編『小学校国語教育研究』(学芸図書、2009)国語教育研究所編『国語教育研究大辞典』(明治図書、1988)日本国語教育学会編『国語教育辞典』(朝倉書店、2001)高橋俊三編『音声言語指導大辞典』(明治図書、1999)各出版社『小学校国語教科書』						
履修上の注意等	『小学校学習指導要領解説国語編』の内容理解と定着のため、必要に応じて小テストを実施する。						

【2336】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
社会科教育法		演習	本間 信博	4年次	通年	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
			○	○		
授業概要			○社会科の学習指導要領の趣旨を理解するとともに、社会科の学習指導の基礎的基本的な知識・技能の習得を図る。 ○教材研究、学習指導案作成、模擬授業実践を通して、発問の仕方、資料提示の仕方・活用等実践につながる方法を習得し、授業実践に取り組める土台を育成する。			単位認定の方法とフィードバックの有無
			期末試験	-		
			期末レポート	-		
			授業内試験	-		
			授業内提出物	60%	有	
			授業内活動	30%	有	
			その他	10%	無	
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		◎	—	○	○	
当該科目のキーワード		社会科脅威の理解	—	地域教材作成	社会科授業実践の基礎	
授業時間外学修の指示	演習45分後半で自己評価し、目標を到達できるよう努めると同時に次回の目標を確認すること、日常生活の中で社会事象に関心を持ち、社会科学習との関連を意識した捉え方ができるようにすること。					
授業の到達目標	社会科教育の理解と社会科授業実践に向けて ①学習指導要領（社会科）の理解 ②問題解決的学習の理解 ③地域教材作成 ④学習指導案作成と授業実践の取り組み					
単位認定の要件	・到達目標の①～④の合計が60点以上。					
単位認定方法へのフィードバック	・作成した学習指導案については、助言感想を記入して返却、模擬授業・感想等は模擬授業研究会内で講評・助言。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	16	オリエンテーション (社会科教育の現状と課題)				
	17	社会科の教科の構造概観と授業づくりの基本 (社会科教育のねらいと概要)				
	18	社会科の教科の構造概観と授業づくりの基本 (社会科学習指導要領の趣旨)				
	19	社会科の教科の構造概観と授業づくりの基本 (社会科教育と学習理論)				
	20	社会科の教材研究 (教材研究の視点)				
	21	社会科の教材研究 (教科書による教材研究)				
	22	社会科の教材研究 (地域教材について)				
	23	社会科学習指導案の作成 (学習指導案作成の基本)				
	24	社会科学習指導案の作成 (指導案作成実施)				
	25	社会科学習指導案の作成 (指導案作成実施, 相互評価)				
	26	授業の展開 (授業実践にあたっての基本的な心構え)				
	27	授業の展開 (模擬授業・授業研究会～3学年授業)				
	28	授業の展開 (模擬授業・授業研究会～4学年授業)				
29	教材, 指導案, 模擬授業の講評と助言					
30	社会科における評価について					
教科書・教材	「新しい社会科 3・4年 上」(東京書籍)					
参考書・参考文献等	「小学校学習指導要領解説 社会科編」(文部科学省)					
履修上の注意等	教育実習・教育現場で、社会科の授業実践に対応できるよう、意見発表等で積極的な取り組みをお願いします。					

【2337】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
算数科教育法		演習	伊藤 學	4年次	通年	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
			○	○		
授業概要			算数科教育の目標、指導内容、指導及び評価方法についての理解を深め、小学校教員として必要な実践的能力の基礎を養うため、小学校算数・中学校数学の目標・内容を分析することにより、算数・数学の特性を理解し、教材研究を深め、自作教具の製作や教材開発を絡めながら、授業形態を含む講義・演習を行う。 テーマ：「惨数・数が苦」から「讚数・数楽」へ *学生の主体性を尊重し、質問・要望には柔軟に対応			単位認定の方法とフィードバックの有無
			期末試験	—		
			期末レポート	—		
			授業内試験	—		
			授業内提出物	60%	有	
			授業内活動	40%	有	
			その他	—		
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		○	○	—	○	
当該科目のキーワード		系統性	論理的思考力	—	教材解釈・教材開発	
授業時間外学修の指示		毎回の授業内容を整理して論理的な考察を加えてレポートを作成し、ポートフォリオとして自らの学習資料を充実させる。				
授業の到達目標		①作図の基本を習得し、教材開発、自作教具の製作につなげることができる。 ②算数・数学の各領域における系統性を把握できる。 ③日常生活における量感、関数関係を算数・数学の舞台に乗せることができる。 ④算数・数学の特性を理解し、授業づくりに生かすことができる。				
単位認定の要件		授業参加状況、問題演習、提出物等の総合評価。				
単位認定方法へのフィードバック		授業内容を記述したレポートの提出、返還を通し、学生の質問・要望を取り上げて解説する。				
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容			
		16	学習指導案(細案)の検討(演習)、研究授業の視点、研究協議会の意義について			
		17	学習指導案(細案)にもとづく模擬授業(演習)、研究協議会(演習)			
		18	小学校算数科の目標分析(4年)→小学校学習指導要領解説(算数編)活用			
		19	小学校算数科の目標分析(5年)→小学校学習指導要領解説(算数編)活用			
		20	小学校算数科の目標分析(6年)→小学校学習指導要領解説(算数編)活用			
		21	小学校算数科の内容構成理解(領域：数と計算、量と測定)、教材研究、教具の工夫			
		22	小学校算数科の内容構成理解(領域：図形、数量関係)、教材研究、教具の工夫			
		23	小学校算数科の内容構成理解(領域：算数的活動)、教材研究、教具の工夫			
		24	中学校数学科の内容構成理解(領域：数と式、図形)			
		25	中学校数学科の内容構成理解(領域：関数、資料の活用)			
		26	中学校数学科の内容構成理解(領域：数学的活動)			
		27	指導と評価について(指導計画、評価計画の理解)			
		28	指導と評価について(観点別評価、評価の観点、評価規準、評価基準の理解)			
教科書・教材		小学校算数4年上・下、5年、6年(学校図書)				
参考書・参考文献等		小学校学習指導要領解説(算数編)、中学校学習指導要領解説(数学編)				
履修上の注意等		三角定規(大1組)、コンパス、カッター、ハサミを各自準備すること。毎回レポートの提出あり(A4版)。				

【2338】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科																		
理科教育法		演習	花田 裕	4年次	通年	児童学科																		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目																			
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士																		
				○	○																			
単位認定の方法とフィードバックの有無																								
授業概要																								
教育実習を直前に控えている学生である。そこで、演習を中心に実験教材に慣れ、効果的に活用した指導法の探求する。具体的には児童も作れる実験・観察器具や教材を工夫させて関心・意欲を高める指導法。試薬の取り扱い及び安全管理と事故防止について、理解し技術の習得。さらにこれらのことを踏まえ、児童個々に目を向けた指導案を構築することができれば、実践力を身に付けることができるであろう。																								
<table border="1"> <tr> <td>期末試験</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td>20%</td> <td>有</td> </tr> <tr> <td>授業内試験</td> <td>50%</td> <td>有</td> </tr> <tr> <td>授業内提出物</td> <td>30%</td> <td>有</td> </tr> <tr> <td>授業内活動</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>—</td> <td></td> </tr> </table>							期末試験	—		期末レポート	20%	有	授業内試験	50%	有	授業内提出物	30%	有	授業内活動	—		その他	—	
期末試験	—																							
期末レポート	20%	有																						
授業内試験	50%	有																						
授業内提出物	30%	有																						
授業内活動	—																							
その他	—																							
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》																			
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。																			
	◎		○		—																			
当該科目のキーワード	・教材の理解 ・事故防止の理解と技術		・児童の思考の探求 ・教材工夫の探求		—																			
授業時間外学修の指示	各回の講義テーマを視点として予習を50分、講義終了後40分、到達目標を確認しながら学修すること。																							
授業の到達目標	実践力を身に付けるために、 ①実験・観察教材の特性を理解し、授業に効果的に活用することができる。 ②試薬の取り扱いについて理解し、事故を未然に防ぐことができる。 ③理科学習において、児童の素朴概念は重要な存在であることを理解することができる。 ④授業は児童個々の能力伸ばすことを理解し、指導案を作成することができる。																							
単位認定の要件	到達目標の①～④の合計が60点以上。																							
単位認定方法へのフィードバック	事前に示した、各提出物やレポートの観点を示し、採点内容について授業中に解説する。																							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容																						
	16	第1章 教材から指導内容の観点を探る。(イワシの解剖、消化器官の役割)																						
	17	第2章 教材から指導技能の観点を探る。(シャボン玉作り、計量技法とデータ整理)																						
	18	第3章 理科セットを活用した第4学年「空気と水」の指導案構築。																						
	19	模擬授業と討議。(テーマ 児童に見通しが持てる授業過程の探求)																						
	20	第4章 理科セットを活用した第4学年「空気と水」の指導案構築。																						
	21	模擬授業と討議。(テーマ 思考ツールを活用した指導法探求)																						
	22	第5章 簡単につくれる実験器具・教材。(手作りモーター、肺のモデル、ペットボトル顕微鏡)																						
	23	手作り教材を活用した指導法の検討。(活用能力の向上)																						
	24	第6章 動植物の観察(ワークシート)とスケッチについて。																						
	25	スケッチ技法の演習。																						
	26	第7章 試薬の扱いと安全管理。(事故事例から学ぶ注意点)																						
	27	第8章 教育実習校の指導案を作成する。(児童の実態に即した指導案)																						
	28	模擬授業Ⅰ。(児童の意欲を喚起する導入段階はどうあるべきか)																						
29	模擬授業Ⅱ。(児童の課題発見促す発問はどうあるべきか)																							
30	第9章 これからの理科授業における「主体的、対話的な深い学び」とはどのようなものか																							
教科書・教材	文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』大日本図書																							
参考書・参考文献等	「授業に活かす！理科教育法」(東京書籍 左巻健男・小田切真・小谷卓也編著)、「若い先生のための理科教育学概論」(東洋館出版 畑中忠雄著)、「小学校指導法 理科」(玉川大学出版部 梅木信一編著)、「意欲を引き出す授業デザイン」(東洋館出版 鈴木誠著)																							
履修上の注意等	レポート様式はA4横書きです。																							

【2340】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
音楽科教育法		演習	一戸 智之	4年次	通年	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	○	
授業概要			理論と実践に基づいた歌唱、ピアノ、簡易楽器、打楽器、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、和楽器等の基礎的な表現法及び指導法を体得するとともに、音楽科教育の実践研究の動向を分析した上で、学習指導要領に明示されている表現及び鑑賞の活動を展開していくための前提となる【共通事項】を踏まえた適切な指導性の意義を考察し、指導案作成と模擬授業を通して実践的な指導方法及び技術の獲得を目指す。			単位認定の方法とフィードバックの有無
						期末試験 60% 有
						期末レポート —
						授業内試験 —
						授業内提出物 20% 有
						授業内活動 20% 無
						その他 —
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
	◎		◎		○	
当該科目のキーワード	音楽理論 歌唱法、ピアノ伴奏法		指導方法・技術		グループ活動、協調性 実践力、応用力	
授業時間外学修の指示	実技練習についてはピアノ練習室を積極的に活用し、毎日の予習・復習を徹底すること（受講にあたり、毎週、45分以上の予習・復習を心がけること）。					
授業の到達目標	①表現及び鑑賞の活動を展開していくために必要な歌唱法およびピアノ、リコーダー、和楽器等の基礎的な奏法とそれらの指導法の理解 ②初等教育で必要とされる基礎的な音楽理論の理解 ③全学年（1～6年生）の歌唱共通教材及び鑑賞教材の指導のための楽曲の理解と曲想の解釈の理解 ④学習指導要領に基づいた音楽科教育の意義、指導方法・技術、評価の観点と方法の実践的理解					
単位認定の要件	到達目標の①～④の合計が60点以上					
単位認定方法へのフィードバック	筆記試験は採点し模範解答と一緒に返却する。実技試験は全員による演奏会形式で行う。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	16	学習指導要領（領域別指導内容）				
	17	学習指導計画と評価基準				
	18	低学年の指導内容と留意点				
	19	低学年の学習指導案の作成				
	20	模擬授業①（第1学年）～実践と振り返り				
	21	模擬授業②（第2学年）～実践と振り返り				
	22	中学年の指導内容と留意点				
	23	中学年の学習指導案の作成				
	24	模擬授業③（第3学年）～実践と振り返り				
	25	模擬授業④（第4学年）～実践と振り返り				
	26	高学年の指導内容と留意点				
	27	高学年の学習指導案の作成				
	28	模擬授業⑤（第5学年）～実践と振り返り				
29	模擬授業⑥（第6学年）～実践と振り返り					
30	学習指導要領に基づいた授業づくりと教師の実践力					
教科書・教材	「教員養成課程 小学校音楽科教育法」（教育芸術社）、「小学生の音楽1年～6年」（教育芸術社）、「学生の音楽通論」（音楽之友社）					
参考書・参考文献等	小学校学習指導要領音楽科、小学校学習指導要領解説音楽編（文部科学省）					
履修上の注意等	実技については毎日の予習・復習に心がけること。					

【2343】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
体育科教育法		演習	上野 秀人	4年次	通年	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
			○	○		
授業概要			<p>小学校体育の目標達成のため、学習指導のあり方を追求する。特に学年別、種目別の体育科教材の研究に努め、目標、内容、方法、評価の観点から理論と実践とを、兼ね合わせた内容で取り組む。</p> <p>グループで協働しながら体育科学習指導案の作成とその指導案をもとに模擬授業を行い省察する。</p>			単位認定の方法とフィードバックの有無
			期末試験	—		
			期末レポート	20%		無
			授業内試験	10%		無
			授業内提出物	—		
			授業内活動	50%		無
			その他	20%		無
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		○	○	○	◎	
当該科目のキーワード		授業づくり	省察力	協働性	模擬授業、指導法	
授業時間外学修の指示		体育科指導案指導案作成に向けた情報収集及び教材化の工夫に努める。				
授業の到達目標		<p>目標：小学生の体力・運動能力を理解し、個・集団にあった適切な授業づくりを行い、学習指導が展開できるようにする。</p> <p>テーマ：「小学校体育の特性と教材把握、及び、その実践」</p>				
単位認定の要件		到達目標の総合的達成度が60%以上。				
単位認定方法へのフィードバック						
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容			
		16	本授業の目的、及び概要・計画			
		17	教授技術、及び、授業単元の選定			
		18	授業づくりとその演習1（導入段階）			
		19	授業づくりとその演習2（展開段階）			
		20	授業づくりとその演習3（終末段階）			
		21	授業づくりとその演習4（導入・展開・終末段階）			
		22	集団行動における列の増減及び、発令の仕方			
		23	体づくり運動からみる体操の必要性			
		24	器械運動における補助法及び、補助具の活用			
		25	器械運動の指導法			
		26	授業研究1（ボール運動）			
		27	授業研究2（器械運動）			
		28	授業研究3（陸上運動）			
29	授業研究4（表現運動）					
30	まとめ 及び 教授技術の確認					
教科書・教材		「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 体育）」国立教育政策研究所				
参考書・参考文献等		「小学校学習指導要領解説 体育編」 文部科学省				
履修上の注意等		授業づくりと教授技術の習得、及び、積極的な意見交換を期待する。				

【2345】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
特別活動の指導法		講義	花田 裕	4年次	前期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士		
				○	○			
授業概要			特別活動の基本的な特徴は、個人が多様な集団の中で、集団の一員として活動することである。その根底となるのが望ましい人間関係づくりである。そこで本科目では、各活動の目的と内容について理解したうえで、生徒指導の視点から特別活動との関連について考察する。また、いじめ、不登校等の諸問題防止について、事例を通して人間関係づくりの指導方法について探求し、さらに指導案構築や模擬授業を通して、実践力の基礎を身に付ける。			単位認定の方法と フィードバックの有無		
			期末試験	—				
			期末レポート	20%	有			
			授業内試験	—				
			授業内提出物	50%	有			
			授業内活動	30%	有			
			その他	—				
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	◎		○		—		—	
当該科目のキーワード	・学習指導要領の理解 ・生徒指導との関連性の理解		・指導案構築の思考力 ・各活動の問題解決力		—		—	
授業時間外学修の指示	各回の講義テーマを視点として予習を90分、講義終了後90分、到達目標を確認しながら学修すること。							
授業の到達目標	望ましい人間関係づくりを視点として、 ①学習指導要領を文節ごとに考察し、特質と意義、目標・内容について理解することができる。 ②生徒指導と特別活動の関連を理解することができる。 ③諸問題について、事例を通して原因を考察することができる。 ④人間関係づくりを視点とした、学級指導案を構築することができる。							
単位認定の要件	達成目標の①～④の合計が60点以上							
単位認定方法へのフィードバック	レポート・提出物の採点基準を確認しながら、授業において確認する。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	第1章 自身の心に影響を与えた活動はどのようなものか。(振り返りと課題の発見)						
	2	第2章 特別活動とは何か。(目標と各活動の目標との関連)						
	3	第3章 特別活動の基本的な性格と教育的な意義						
	4	第4章 特別活動と教育課程。(教科・道徳・総合的な学習時間との関連)						
	5	第5章 特別活動と生徒指導の関連。(特別活動は実践的な指導という認知)						
	6	第6章 学級活動。(目標と内容の理解、事例)						
	7	いじめの問題。(防止と対応の探求)						
	8	不登校の問題。(防止と対応の探求)						
	9	キャリア教育と学級活動。(指導の観点と事例)						
	10	第7章 児童会活動。(目標と内容の理解、事例)						
	11	第8章 学校行事とクラブ活動。(目標と内容の理解、事例)						
	12	第9章 指導計画と内容の取り扱い						
	13	第10章 指導案の構成項目と評価方法(国立教育政策研究所資料を参考)						
	14	第11章 指導案の構築。(日常生活や学習への適応及び健康安全の内容から選択)						
15	第12章 模擬授業。							
教科書・教材	「小学校学習指導要領解説 特別活動編」東洋館、文部科学省							
参考書・参考文献等	「特別活動論」(一藝社、田中智志、橋本美保監修、犬塚文夫編著)、「特別活動指導法」(渡辺邦雄、緑川哲夫、桑原憲一編著)、「特別活動の教育技術」(小学館、杉田洋著)、「指導法 特別活動」(玉川大学出版部、北村文夫著)							
履修上の注意等	達成目標を評価するため、随時レポートを提出させます。							

【2358】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
生徒指導		講義	石戸谷 繁	4年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
				○	○		
授業概要		児童生徒理解なくして、あらゆる教育活動は成立しない。児童生徒理解の基本をふまえて生徒指導の基礎・基本について理解を深める。具体的な問題や課題をとおして、成長と発達、教育環境、集団と個などの観点から指導のあり方を考える。				単位認定の方法とフィードバックの有無	
		期末試験		—			
		期末レポート		—			
		授業内試験		—			
		授業内提出物		60%	無		
		授業内活動		40%	無		
		その他		—			
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		○	◎	○	○		
当該科目のキーワード		—	—	—	—		
授業時間外学修の指示		日常において教育に関する新聞記事を読み、テレビの報道・番組に関心をもつこと					
授業の到達目標		①生徒指導とキャリア教育の意義と方法について理解を深める。 ②児童生徒が抱える諸課題について、成長と発達、教育環境との関連から具体的な対処の方法を考えることができるようになる。 ③生徒指導とキャリア教育を行う際に、教師として留意すべき事項を理解する。					
単位認定の要件		到達目標の①～③の達成が60%以上					
単位認定方法へのフィードバック		日常において教育に関する新聞記事を読み、テレビの報道・番組に関心をもつこと					
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容				
		1	生徒指導の意義と原理① 意義と原理				
		2	生徒指導の意義と原理② 生徒指導の三つの機能				
		3	生徒指導の意義と原理③ 集団指導と個別指導の方法と原理				
		4	教育課程における生徒指導の位置づけ				
		5	生徒の心理と生徒理解① 生徒理解の基本				
		6	生徒の心理と生徒理解② 自己肯定感・自己有用感				
		7	生徒の心理と生徒理解③ 児童期から青年期の心理と発達				
		8	個別の課題を抱える児童生徒への指導① 少年非行、暴力行為				
		9	個別の課題を抱える児童生徒への指導② いじめ				
		10	個別の課題を抱える児童生徒への指導③ インターネット・携帯電話に関わる問題				
		11	個別の課題を抱える児童生徒への指導④ 性に関わる問題、命の教育と自殺防止他				
		12	生徒指導と法制度 懲戒と体罰、校則、個人情報他				
		13	キャリア教育① 意義と定義、理論				
		14	キャリア教育② 指導の実際 指導方法				
15	安全管理と安全教育 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携、「学校保健安全法」「学校給食法の一部改正」						
教科書・教材		『生徒指導提要』（文部科学省）、『キャリア教育の手引き（小学校）』（文部科学省）					
参考書・参考文献等		特になし					
履修上の注意等		特になし					

【2359】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
教育相談		講義	三道 なぎさ 平井 順治	4年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
授業概要			教育相談の意味や意義について理解した上で、学校現場で生じる諸問題や、児童理解のための技術、カウンセリングの諸理論や予防的対応について学んでいく。また、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどの演習を取り上げながら、「心を開放できる学級集団作り」のための基礎的な手法を学習する。			単位認定の方法と フィードバックの有無
			○	○	○	期末試験 ー
						期末レポート 15% 有
						授業内試験 ー
						授業内提出物 60% 有
						授業内活動 25%
						その他 ー
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
	◎		◎		○	
当該科目のキーワード	児童生徒理解と共感的指導		構成的グループエンカウンター		カウンセリング技法、予防的対応、自己開示	
授業時間外学修の指示	講義後から次週の講義までの間、180分程度の復習をするように努めること。具体的には、授業内で適宜紹介された参考資料や文献を活用しながら各回の内容を十分に理解する。学校現場で生じる諸問題（いじめ、自殺、不登校など）に関するニュースや記事に注意を払う。					
授業の到達目標	①教育相談の意味や意義について理解できる。 ②児童理解、カウンセリング、予防的対応に必要な基本的事項を理解できる。 ③学級集団作りの具体的手法を身につけることができる。 ④人間関係作りにはじこかいじが大切であることに気づき、それを心がけようとする心情を持つことができる。					
単位認定の要件	到達目標①～④の合計が60点以上であること。					
単位認定方法へのフィードバック	期末試験は採点し模範解答と一緒に返却。授業内提出物は採点して返却し、授業中に解説する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	教育相談の意義と意味				(担当：三道 なぎさ)
	2	児童理解				(担当：三道 なぎさ)
	3	いじめ				(担当：三道 なぎさ)
	4	不登校				(担当：三道 なぎさ)
	5	学校における緊急支援				(担当：三道 なぎさ)
	6	カウンセリングの基礎理論（マイクロカウンセリング）				(担当：三道 なぎさ)
	7	カウンセリングの基礎理論（短期療法）				(担当：三道 なぎさ)
	8	カウンセリングの実際				(担当：三道 なぎさ)
	9	授業を通じた児童生徒理解と共感的な指導 1 わかる授業と子ども理解				(担当：平井 順治)
	10	授業を通じた児童生徒理解と共感的な指導 2 失敗回避傾向の低減を図る共感的指導				(担当：平井 順治)
	11	学級の人間関係作りの実際 1 出逢いの構成的グループエンカウンター				(担当：平井 順治)
	12	学級の人間関係作りに実際 2 深いコミュニケーションを育てる構成的グループエンカウンター				(担当：平井 順治)
	13	発達障害を抱えた児童生徒の理解を共感的な指導				(担当：平井 順治)
	14	学校事故を防ぐための児童生徒理解と共感的な指導				(担当：平井 順治)
15	人間の可能性と共感的な指導				(担当：平井 順治)	
教科書・教材	特になし。					
参考書・参考文献等	会沢信彦・安齋順子（編著）「教師の卵のための教育相談」（北樹出版） ピアヘルパーハンドブック（図書文化 日本教育カウンセラー協会） ピアヘルパーワークブック（図書文化 日本教育カウンセラー協会）					
履修上の注意等	演習や活動に積極的に取り組むこと。各時間毎のレポートをしっかりと書き、提出すること。					

【2360】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
教職実践演習(幼・小)		演習	齋藤 雅俊 他	4年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園
				○	○	○
授業概要		大学4年間で学んだ学習知と教育実習等で得られた教科指導力や生徒指導力の実践知との更なる統合を図り、教員としての使命感や責任感、教育的愛情に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質の構築とその確認を行うために開設する。演習形態を中心として、講義、事例研究、グループ討論、発表、ロールプレイング、フィールドワーク、模擬授業等を組み合わせ実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。				単位認定の方法とフィードバックの有無
						期末試験 ー
						期末レポート ー
						授業内試験 ー
						授業内提出物 20% 有
						授業内活動 80% 無
						その他 ー
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
	◎		◎		◎	
当該科目のキーワード	4年間の教職課程を通して得た知識・理解についての振り返りと再確認		ワークショップ形式のアクティブラーニングによる汎用的技能の形成		教員として必要不可欠な社会性や対人関係能力、使命感や責任感等の態度の形成	
授業時間外学修の指示	事前に次回分のワークシートが配布された場合、あらかじめそこで挙げられた課題について記述しておく。また、模擬授業・模擬保育を行う回に際しては、事前に授業の指導案や活動案を作成しておく。					
授業の到達目標	教員としての資質の構築と確認 ①教員としての使命感や責任感、教育的愛情 ②教員としての社会性や対人関係能力 ③幼児児童生徒への理解や学級経営能力 ④教科・保育内容等の指導力等の構築と確認					
単位認定の要件	担当教員による総合的評価を行う。各課題に対する討論・発表(80点)[配点内訳：教職実践力指標4事項につき各20点]+レポート等提出物(20点)=100点。※なお公欠等で欠席した場合、追加課題等で一定の評価を認める場合がある。					
単位認定方法へのフィードバック	ワークシートや授業内提出物については返却する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	本演習の目的と計画・これまでの学修の振り返り (齋藤雅俊、花田裕)				
	2	教職の意義及び教員の役割に関する探求 (齋藤雅俊、花田裕)				
	3	教員の職務内容及び子どもに対する責任感や教育的愛情等に関する探求 (齋藤雅俊、花田裕)				
	4	教員としての使命観や責任感、教育的愛情等に関する探求 (齋藤雅俊、花田裕)				
	5	教員組織の一員としての自覚に関する探求 (小林琢哉、三道なぎさ)				
	6	教員と保護者や地域の関係者との人間関係の構築等に関する探求 (小林琢哉、三道なぎさ)				
	7	教員としての社会性や対人関係能力等に関する探求 (小林琢哉、三道なぎさ)				
	8	幼児児童等への理解と学級経営等に関する探求 (長尾明義、石戸谷繁、安川由貴子、吉田裕美子)				
	9	学級経営に関する具体案の作成とその検討 (長尾明義、石戸谷繁、安川由貴子、吉田裕美子)				
	10	教員としての社会性、対人関係能力、幼児児童等への理解と学級経営等に関する探求 (長尾明義、石戸谷繁、安川由貴子、吉田裕美子)				
	11	小学校教科・幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求① (安川由貴子、花田裕、吉田裕美子)				
	12	小学校教科・幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求② (安川由貴子、花田裕、吉田裕美子)				
	13	小学校教科・幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求③ (安川由貴子、花田裕、吉田裕美子)				
	14	小学校教科・幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求④ (安川由貴子、花田裕、吉田裕美子)				
15	14回の総括と確認結果に基づく本演習の補充・再総括と確認(まとめ) (齋藤雅俊)					
教科書・教材	授業中に、適宜、紹介する。					
参考書・参考文献等	授業中に、適宜、紹介する。					
履修上の注意等	『東北女子大学ポートフォリオ(自己の成長記録)』を活用した振り返りと残された課題等の発見に留意し、ポートフォリオの最終ページを飾るレポート作成に心がけること。					

【2361】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
教育実習(小)		実習	教職課程委員会	4年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
4			必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	○	
授業概要		小学校での児童との直接的教育活動を通して、授業実践力、児童指導研究、学級経営、学校校務等を体験し、理解することによって学校教育実践力の基礎を体得する。				単位認定の方法と フィードバックの有無
		実習校の評価		90%	有	
		委員会の 評価基準		10%	有	
		その他				
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		◎	○	○	◎	
当該科目のキーワード		校務に関する体系的理解・指導力	コミュニケーション・スキル	教員としての倫理観	課題解決能力	
授業時間外学修の指示		教育実習中に必要とされる知識・指導法について学習する。指導案作りや教材研究などは時間を十分にかけを行い、18日間の実習を全うできるよう日々学習すること。				
授業の到達目標		将来、小学校教員としての資質を身につけるために、大学における学習を基に現場での体験を通して、教育への情熱、児童成長のための愛情精神と指導法および教育者としての校務の基本を体得する。				
単位認定の要件		実習終了後、各実習校からの評価から本学所定の評価基準に基づき単位化する。				
単位認定方法へのフィードバック		実習校から返却された実習録の内容確認後、所見とともに返却する。				
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容			
		1	【実習校および実習期間】			
		2	・実習校は弘前市内の教育実習協力校14校。			
		3	・実習期間は8月中旬～9月中旬までの18日間（詳細は各実習校の日程に従う）。			
		4	【ガイダンス・事前準備】			
		5	・実習準備として事前にガイダンスを数回行う。実習希望者は必ず出席すること。			
		6	・また「教育実習事前事後指導」（1単位）において実習にあたっての心構えや校務に関する予備知識および教育活動の基本を学ぶ。			
		7	【実習内容】			
		8	・学級活動や学習活動の観察、参加			
		9	・学級運営のための実習（部分実習、全体本実習）			
		10	・上記以外の学校運営に関わる校務に参加			
		11	*実習中は実習録に日々の活動内容等を記録し、指導担当教員の確認を受ける。			
		12	*実習終了後、実習体験記録を作成し、実習生による反省会（3年次との交流会）で活動内容の報告を行う。			
		13	*実習前は、学習指導に必要な教科単位の習得につとめる。実習中は健康管理に注意し、実習校では礼節をもって行動し、児童理解・教育現場の理解につとめる。			
		14	【実習実施の認定方法】			
		15	・教育実習に関し、実習希望者は4年次年度初めに本学学則により資格認定審査を受け、教授会において承認を得る。			
			・実習先は、承認を受けた者の希望を教職課程委員会が調整し決定する。			
			【その他の実習について】			
			*教育実習希望者は、3年次10月に小学校現場体験の一環として実施される観察実習、および4年次6月に実施される小規模校観察実習に参加する。			
教科書・教材		『小学校学習指導要領解説』（文部科学省）、児童用教科書、教員用指導書				
参考書・参考文献等		『架け橋 ～未来の子どもたちのために～』を参考にし、実習校および実習内容について学んでおくこと。また学校教育活動や学級経営、校務教育者としての責務や児童研究に関するものを読み、実習に備えること。				
履修上の注意等		教育実習を履修する者は、前期に実施される学校教育体験実習Ⅰと後期に実施される学校教育体験実習Ⅱもあわせて履修しなければならない。（教育実習協力校との取り決めに基づく）				

【2362】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
事前事後指導(小)		演習	長尾 明義 杉本 久美子	4年次	前期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士		
			○	○				
授業概要			教育実習の目的や意義、心得などの理解を図ると共に、実習校での授業に対する不安を解消し、自信をもって、意欲的に取り組むことができるようにする。そのために、小学生児童の発達段階における特徴の理解、学習指導案の作成・プレ授業など授業力の向上を目指す授業を展開する。この授業を通して、学生一人一人が自分なりの「ありたい教師像・目指す教師像」を希求し、それを目指しながら、自らの課題を解決していこうとする意欲の醸成を図る。			単位認定の方法と フィードバックの有無		
			期末試験	—				
			期末レポート	10%		無		
			授業内試験	—				
			授業内提出物	60%		有		
			授業内活動	30%		有		
			その他	—				
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	○		◎		—		◎	
当該科目のキーワード	目的・意義・心得の理解		問題解決力		—		課題を解決する力	
授業時間外学修の指示	講義前日の予習、当日の復習25分を確実にを行い授業の到達目標①～④を達成するように努めること。							
授業の到達目標	教育実習に向けて ①教育実習の目的や意義、心得を理解し意欲的に取り組もうとする。(アンケート・意識調査) ②小学生における一般的な発達の特徴を理解できる。 ③学習指導案(略案)を作成し・プレ授業ができる。また、授業の工夫点や改善点を指摘できる。 ④目指す教師像に向けて課題意識をもち意欲的に取り組もうとする。(アンケート・意識調査)							
単位認定の要件	到達目標①～④の合計が60点以上							
単位認定方法へのフィードバック	レポートや指導案をチェックし、不備があれば個別に助言する。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	第1章 教育実習・学校教育体験実習の目的と意義(目的・意義の理解)						
	2	第1章 教育実習の準備と心得(心得の理解・意欲化)						
	3	第2章 平成30年度 学校教育体験実習ガイダンス(学校体験実習事前指導)						
	4	第2章 僻地校・小規模校(複式授業)参観実習について(複式授業・方法についての理解)						
	5	第3章 小学生の発達の特徴・児童理解の必要性(児童理解・発達段階の理解)						
	6	第4章 実習校事前訪問の事前指導(学校訪問に関する事前指導)						
	7	第5章 授業に向けての準備(1)「実習前にできること」						
	8	第5章 授業に向けての準備(2)「授業の単元(題材)が決まったら」						
	9	第5章 授業に向けての準備(3)「1時間の授業を組み立てる」						
	10	第5章 授業に向けての準備(4)「プレ授業に挑戦しよう①」						
	11	第5章 授業に向けての準備(5)「プレ授業に挑戦しよう②」						
	12	第5章 授業に向けての準備(6)「プレ授業に挑戦しよう③」						
	13	第6章 私の目指す教師像・実習校で何を学びたいのか。						
	14	第7章 実習録の書き方について(記述の方法・内容の理解)						
15	第8章 教育実習直前ガイダンス(意欲化)							
教科書・教材	適宜資料を配布する。							
参考書・参考文献等	◇「教育実習ガイダンス」(東信堂・山崎英則他編)◇「小学校教育実習実践ガイド」(明治図書・長瀬善雄編著) ◇「架け橋～未来の子どもたちのために～」(東北女子大学児童学科 第41回生編集) ◇児童用教科書(1～6年全教科)及び教師用指導書(1～6年全教科)							
履修上の注意等	教育実習と対になっている授業なので、教育実習修了者のみが単位を取得できる。							

【2363】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
学校教育体験実習Ⅰ（小）		実習	教職課程委員会	4年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
1			必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	△	
授業概要		市内指定小学校にて実際に学校教育活動に参加し、小学校の一日および一年間の様子を体験する。児童や学級担任、小学校教員たちとの交流と活動を通し、小学校教諭に必要とされる基礎知識と基本的指導力を育成する。またこの実習での経験と学びを、教育実習の場で活かし、実習内容の充実を図る。				単位認定の方法と フィードバックの有無
		実習校の評価		90%	有	
		委員会の 評価基準		10%	有	
		その他				
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		◎	◎	○	○	
当該科目のキーワード		校務に関する総合的な理解	信頼関係の構築	教員としての倫理観	自らの課題を見つけ、それに取り組む	
授業時間外学修の指示		配属された学校、学級、児童を理解するために、また教育活動で何が必要かなど、自分に不足しているものを把握し、実習日の事前や事後に学習すること。				
授業の到達目標		教育実習の準備段階として、学校生活の基礎・基本を体得する。配属された学級の学習活動に参加し、児童理解や学級経営、授業の準備や展開方法などの基礎知識を学ぶ。				
単位認定の要件		日々の活動記録と実習終了後のレポート提出および実習校からの成績表の点数化により単位認定を行う。				
単位認定方法へのフィードバック		実習校から出される所見および日々の活動記録、レポートを返却し、講評する。				
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容			
		1				
		2				
		3	・期間および回数 5月～7月 週1回（火曜日） 計10回 時 間 8：30 ～ 16：30			
		4				
		5	・体験実習校 弘前市公立小学校（市内教育実習指定校 14校）			
		6	・主な活動			
		7	1. 学校の教育方針、学校行事、日課について理解する。			
		8	2. 学級と児童との関わり、対応の考え方、方法等を観察しながら学習する。			
		9	3. 学習指導と学級経営の基本的技術を学ぶ。			
		10	4. 担当教員の指導のもと、授業補助や準備、ドリルの採点などに携わる。			
		11	5. クラブ活動や様々な教育活動に取り組む。			
		12	*実習中は、実習校にて出勤簿に捺印し、日々の活動記録を担当教員に提出する。			
		13	*実習後は、報告・感想文を教職課程委員会へ提出、実習校へ郵送する。			
		14	*教師となる意思を持ち、10回の実習をやり遂げるために、自己管理や健康管理に努める。			
		15	体験実習校と相談し確認しながら、また受けた助言は真摯に受け止め、前向きな姿勢で体験実習に取り組むこと。			
教科書・教材		特になし				
参考書・参考文献等		『架け橋 ～未来の子どもたちのために～』を参考にし、実習校および実習内容について学んでおくこと。 ※教育活動や児童理解に必要なと思われる書籍や情報は積極的に活用し、現場理解に努めること。				
履修上の注意等		学校教育体験実習Ⅰ履修者は教育実習および学校教育体験実習Ⅱもあわせて履修しなければならない。				

【2364】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
学校教育体験実習Ⅱ（小）		実習	教職課程委員会	4年次	後期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
1			必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
				○	△		
授業概要		学校教育体験実習Ⅰ、教育実習での教育体験に引き続き、教育者としての資質および実践力向上のために、学校教育活動全般について学ぶ。将来の教育活動に役立つようにするとともに、体験実習校の教育活動充実のための補助・支援活動に参加する。				単位認定の方法と フィードバックの有無	
		実習校の評価		90%	有		
		委員会の 評価基準		10%	有		
		その他					
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		◎	○	○	◎		
当該科目のキーワード		児童・校務理解、指導力	コミュニケーション・スキル 問題解決力	教員としての倫理観	新たな課題を見つけ、それを改善する		
授業時間外学修の指示		体験実習Ⅰおよび教育実習で得た知識や技術の定着と向上、不足しているものを補完するために必要なことを学習すること。					
授業の到達目標		教育実習終了後、さらに教員としての役割、責任、喜びを実感し、教育活動の総合的能力を高め、教員としての資質および実践的な指導力を向上させる。					
単位認定の要件		日々の活動記録と実習終了後のレポート提出、実習校からの成績を点数化し単位認定を行う。					
単位認定方法へのフィードバック		実習校から出される所見および日々の活動記録、レポートを返却し、講評する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容				
		1					
		2					
		3	・期間および回数 10月～12月 週1回（金曜日） 10回				
		4	時 間 8：30～16：30				
		5	・体験実習校 弘前市内公立小学校（教育実習指定協力校 14校）				
		6	・主な活動				
		7	1. 学校教育方針、学校行事、日課について理解する。				
		8	2. 学級と児童との関わり、対応の考え方、方法等も観察しながら学習する。				
		9	3. 学習指導および学級経営の技術指導法と技術の基礎を学ぶ。				
		10	4. 教員指導のもと、授業補助や準備、ドリルの採点補助などに携わる。				
		11	5. クラブ活動や様々な教育活動に取り組む。				
		12	*実習中は、実習校にて出勤簿に捺印し、日々の活動記録を担当教員に提出する。				
		13	*実習後は報告、感想・決意文を委員会に提出し、実習校へ郵送する。				
		14	*体験実習Ⅰおよび教育実習で習得したことを更に向上させるためにも、謙虚な姿勢を忘れずに意欲的に取り組む。				
15							
教科書・教材		『小学校学習指導要領解説』（文部科学省）、児童用教科書、教員用指導書					
参考書・参考文献等		特になし ※ただし教育活動や児童理解に必要と思われる書籍や情報は積極的に活用し、現場理解に努めること。					
履修上の注意等		学校教育体験実習Ⅱは学校教育体験実習Ⅰおよび教育実習とあわせて履修しなければならない。					

【2372】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
相談援助		演習	西 敏郎	4年次	後期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	
				○		保育士	
						○	
授業概要		相談援助の基本的技術・方法を修得した後、過去実際にあった事例をソーシャルワーカーとして取り組み、実践力を養成する。現場で実務にあたる保育士、介護士、看護師などに必要な「実践による解決する力」の構築を目標に、ロールプレイや事例研究を主で行なう。				単位認定の方法とフィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	60%
						授業内提出物	20%
						授業内活動	20%
						その他	—
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		○	○	○	◎		
当該科目のキーワード	福祉行政、保育サービス、社会資源の理解		問題対応能力	保育士のチームワーク	独自で問題に対して探求できる力の構築		
授業時間外学修の指示	普段から、保育関係のさまざまな問題に興味を持ち、疑問に思ったことは探求するよう努める。						
授業の到達目標	保育所のニーズは日々多様化している。チャイルドケアだけではなく地域の「子育てに関する相談・支援」の役割も求められるようになった。したがってこの変化に対応するための必要な知識・技術の修得を目指す。						
単位認定の要件	積極的に事例に取り組む姿勢、および高い倫理観と道徳的判断力の構築が出来たかどうかを判定する。						
単位認定方法へのフィードバック	事例研究・ロールプレイを行いその取り組み方や対応策について評価を行う。その後模範解答も提示する。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)		内 容					
		1 オリエンテーション：本演習を受講するにあたっての注意事項等を説明する。					
		2 社会福祉の役割と意義：相互扶助作用の制度化である福祉の役割と意義について解説する。					
		3 社会福祉施設の目的と役割：実際に福祉を担っている施設の目的と役割を解説する。					
		4 相談援助の機能：相談援助の目的や役割を解説する。					
		5 記録・連携・協働：ソーシャルワーカーに不可欠な記録・連携・協働について解説する。					
		6 ケースワークとは：個別援助技術の目的と役割について解説する。					
		7 グループワークとは：集団援助技術の目的と役割について解説する。					
		8 保育所における事例研究①：守秘義務と報告義務の事例					
		9 保育所における事例研究②：信頼関係とその構築の事例					
		10 保育所における事例研究③：地域トラブルの事例					
		11 保育所における事例研究④：保護者とのトラブルの事例					
		12 保育所における事例研究⑤：児童虐待の事例					
		13 保育所以外の児童福祉施設における事例研究：地域援助の必要性の事例					
		14 児童を取り巻く日本の福祉：これまでの演習を振り返り問題点・改善点を確認する。					
		15 相談援助にかかわる時事問題：現在のソーシャルワーカーの時事問題を取り上げ、一緒に考える。					
教科書・教材	特になし						
参考書・参考文献等	図書館などで関連書籍を参考にしていきたい。						
履修上の注意等	常に学ぶ姿勢を忘れず、自ら探求し積極的な意見の表明を求める。						

【2373】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
児童家庭福祉(1)		講義	小野 昇平	4年次	前期	児童学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無		
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士		
				○			○		
授業概要		保育士は、「児童の保育および保護者に対する指導を行う」児童福祉の専門職であり、子どもを保育するだけでなく、地域における子どもや家庭に関する諸問題についての支援者としての役割も求められる。それゆえこの講義では、児童家庭福祉の諸制度に共通する総論部分についての理解を深めると同時に、現代の子どもや家庭が置かれている社会の状況についても深く考えることを目的とする。					期末試験	—	
							期末レポート	70%	無
							授業内試験	—	
							授業内提出物	30%	有
							授業内活動	—	
							その他	—	
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
	◎		○		—		—		
当該科目のキーワード	児童家庭福祉諸政策の概要		子どもや家庭を巡る現代的課題		—		—		
授業時間外学修の指示	講義当日（講義）後に30分、講義前日に30分、講義の予習復習をすること。また講義で扱った事件に関連しそうなニュースや雑誌記事、論文などに一日10分程度目を通しておくこと。								
授業の到達目標	①児童家庭福祉の各種サービスに共通する点について、専門職としての保育士に求められる最低限の知識を身に付けること。 ②現代の日本社会の現状や特徴を踏まえて、児童家庭福祉の法制度（共通部分）に内在する根本的な問題を、おおまかにでも自分の言葉で説明できるようになること。								
単位認定の要件	到達目標①②の観点から評価した結果が60点以上。								
単位認定方法へのフィードバック	毎回提出してもらおうミニレポートは、コメントを付して返却する。								
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容							
	1	なぜ「児童福祉」ではなく「児童家庭福祉」なのだろう？							
	2	子どもや家庭を巡る現代社会の現状を理解しよう							
	3	児童家庭福祉に関する具体的な問題をいくつか見てみよう							
	4	児童家庭福祉の理念と歴史①—「子ども」観の変遷を理解しよう							
	5	児童家庭福祉の理念と歴史②—「子どもの最善の利益」とはどのようなことだろう？							
	6	児童家庭福祉法制の全体像を見てみよう							
	7	児童家庭福祉の諸政策を巡る都道府県と市町村の役割分担を考えよう							
	8	様々な児童福祉施設の役割について理解しよう—小テスト							
	9	児童福祉施設による社会的養護とその問題点を考えよう							
	10	児童家庭福祉の専門職にはどのような職種があるのだろうか？これらの職に求められるものは何だろうか？							
	11	子育て支援の諸政策について現状を理解し、問題点を考えよう							
	12	多様な保育ニーズへの対応を考えよう							
	13	子ども子育て支援新制度で何が変わったのだろうか？							
	14	子ども子育て支援新制度に問題はないのだろうか？							
15	世界と日本の子どもたち—子どもの権利条約と児童家庭福祉								
教科書・教材	特になし。ただし講義中に紹介する参考書を手元に用意しておくことを推奨する。								
参考書・参考文献等	講義内で案内する。								
履修上の注意等	主として児童家庭福祉の総論部分を取り上げ、虐待の問題や障害児支援など、具体的な児童家庭福祉サービスの各論部分については、後期に開講する「児童家庭福祉(2)」で扱うこととする。								

【2374】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
児童家庭福祉(2)		講義	小野 昇平	4年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園
				○		△
授業概要		前期の「児童家庭福祉(1)」の内容を踏まえ、児童虐待や障害児支援、非行少年の保護更生など、個別の児童家庭福祉の制度について説明し、これらに関連する現代的諸課題についてコメントシートに自分の意見を書いてもらう。講義終盤には、いわゆる赤ちゃんポスト（こうのとりゆりかご）の設置（存続）の是非の問題を素材として、「子どもの権利」や「子どもの最善の利益」の概念についての理解を基に、子どもや家庭を巡る現代的課題の解決策を考える。				単位認定の方法とフィードバックの有無
		期末試験	—			
		期末レポート	60%			無
		授業内試験	—			
		授業内提出物	40%			有
		授業内活動	—			
		その他	—			
到達目標の分類	◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	《知識・理解》 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	《汎用的技能》 コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	《態度・志向性》 自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	《総合・統合》 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
当該科目のキーワード	児童家庭福祉の諸サービスの概要	ミニレポート	—	—	子どもや家庭を巡る現代的課題の解決策	
授業時間外学修の指示	講義当日（講義）後に30分、講義前日に30分、講義の予習復習をすること。また講義で扱った事件に関連しそうなニュースや雑誌記事、論文などに一日10分程度目を通しておくこと。					
授業の到達目標	①児童家庭福祉の各論的内容（虐待、障害児、非行少年等）について最低限の知識を得ること ②児童家庭福祉に関連する現代的課題について、大まかにでも自分の言葉で説明できるようになること ③前期の児童家庭福祉（1）および本講義で学んだ内容を応用して、「子どもの権利」や「子どもの最善の利益」といった概念を基に、子どもや家庭を巡る諸課題の解決策について考えられるようになること					
単位認定の要件	①②③の観点からの評価の結果が60点以上					
単位認定方法へのフィードバック	毎回の講義で提出されるミニレポートはコメントを付した上で返却する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	イントロダクション—親は子どもに何ができるのかを考えよう。				
	2	現代日本の家族像について改めて考えよう				
	3	児童虐待①—児童虐待の現状と対策の沿革を学ぼう				
	4	児童虐待②—児童福祉法に基づく虐待への対応（要保護児童対策）を理解しよう				
	5	児童虐待③—児童虐待防止法に基づく虐待への対応の流れを理解しよう				
	6	児童虐待④—児童虐待と親子関係（親権の問題）について考えよう				
	7	配偶者間暴力（DV）への対応について概要を理解し、問題点を考えよう				
	8	母子保健サービスの概要と課題を理解しよう				
	9	児童の健全育成のための支援にはどのようなものがあるかを理解しよう。				
	10	障害児に対する支援はどのようになっているかを理解しよう。				
	11	障害児と学校教育、出生前診断の問題点を考えよう				
	12	少年法①—非行少年の処遇の流れと保護処分について理解しよう				
	13	少年法②—虐待少年、触法少年の処遇について理解し、少年犯罪の厳罰化問題について考えよう				
	14	赤ちゃんポスト①：NHKドキュメンタリー「命のバトン」を観て赤ちゃんポストの存在意義を考えよう				
15	赤ちゃんポスト②：赤ちゃんポストの設置（存続）の是非を考えよう					
教科書・教材	特になし					
参考書・参考文献等	講義の最初に案内する。					
履修上の注意等	前期の児童家庭福祉（1）の講義を履修していることが望ましいが、そうでなくても構わない。					

【2384】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
家庭支援論		講義	工藤 のぶ	4年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園
				○		保育士
授業概要			保育士は、保護者への子育ての問題や課題に対しての支援と、地域の子育て家庭への支援が必要とされている。授業では、子育て家庭の歴史と現状の理解、子育て家庭支援の必要性、子育て家庭支援の支援体制、子育て家庭の支援の方法（あり方）、子育て家庭支援の実践事例等を通して学ぶ。そして、これからの子育て家庭支援の課題を考える。理解を深めるために授業後に振り返り学習を行う。			単位認定の方法とフィードバックの有無
			期末試験	—		
			期末レポート	—		
			授業内試験	40%	有	
			授業内提出物	30%	有	
			授業内活動	30%	有	
			その他	—		
到達目標の分類	◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	《知識・理解》 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	《汎用的技能》 コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	《態度・志向性》 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	《総合・統合》 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
当該科目のキーワード	社会の変化と家族	—	自治体の取り組み	これからの子育て支援		
授業時間外学修の指示	新聞やテレビのニュースで話題となっている子育て家庭の支援に関する情報を把握して、授業に参加してほしい。					
授業の到達目標	家族・家庭に関する諸理論や、社会的状況の変化を理解する。 子育て家庭への支援と地域への子育て支援の意義を理解し、関係機関との連携について知る。 子育て支援の現状について、各自治体の取り組みを把握する。 子育て家庭支援の方法・あり方を理解し、実践事例を通して学ぶ。 これからの家庭支援の課題を考える。					
単位認定の要件	到達目標の合計が60%以上					
単位認定方法へのフィードバック	授業内試験は返却し解説する。授業内提出物は時間内に発表・提出し、後日返却する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回					
	1	子ども・家庭・家族・子育ての基本的な考え方—子育て家庭の歴史—				
	2	子ども・家庭・家族・子育ての基本的な考え方—家族・家庭の現状—①				
	3	子ども・家庭・家族・子育ての基本的な考え方—家族・家庭の現状—②				
	4	子ども・家庭・家族・子育ての基本的な考え方i—子どもと家族・家庭— ①				
	5	子ども・家庭・家族・子育ての基本的な考え方i—子どもと家族・家庭— ②				
	6	子育て家庭支援の必要性				
	7	子育て家庭の支援体制—子育て家庭支援の法的根拠・子育て支援施策・次世代育成支援施策—				
	8	子育て家庭の支援体制—子育て家庭支援の制度と関係機関—				
	9	子育て家庭の支援体制—自治体の取り組みと子育て支援サービスについて(グループで話し合う)				
	10	子育て家庭の支援体制—自治体の取り組みと子育て支援サービスについて(グループ発表) ①				
	11	子育て家庭の支援体制—自治体の取り組みと子育て支援サービスについて(グループ発表) ②				
	12	子育て家庭の支援の方法(あり方) —自己修復力のある家庭への支援— 実践事例を通して				
	13	子育て家庭の支援の方法(あり方) —特別な対応を要する家庭への支援— 実践事例を通して				
	14	子育て家庭の支援の方法(あり方) —危機的状態にある子育て家庭への支援— 実践事例を通して				
15	これからの子育て家庭支援の課題と展望					
教科書・教材	編著 木村志保 津田尚子 『学び、考え、実践力をつける家庭支援論』保育出版社					
参考書・参考文献等	上記教科書の内容及び関連資料を使用する					
履修上の注意等	家庭への支援を、身近なこととして捉えて臨んでください。					

【2389】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
保育相談支援		演習	安川 由貴子	4年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	
				○		○	
授業概要		保育相談支援が求められる背景と意義について学ぶ。保育相談支援の基本的な考え方やその方法についてグループ討議や調査研究・発表、ロールプレイ等を通して学ぶ。また、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について、事例検討等を通じて理解を深める。				単位認定の方法とフィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	45% 有
						授業内試験	—
						授業内提出物	25% 有
						授業内活動	30% 無
						その他	—
到達目標の分類	◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	《知識・理解》 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	《汎用的技能》 コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	《態度・志向性》 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	《総合・統合》 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		◎	○	○	○		
当該科目のキーワード	保育相談支援に関わる社会的背景と意義の理解	保育相談支援の方法と技術	保育者としての倫理観	事例検討を通じた総合的理解			
授業時間外学修の指示	講義前日の予習15分及び当日の復習30分で、各回の到達目標を十分に理解するように努めること。また、保護者と子どもを取り巻く社会環境に関心を持ち、情報収集し、自ら学び、考える姿勢を身に付けること。						
授業の到達目標	保護者と子どもを取り巻く環境を理解し、保育相談支援の意義と基本的な考え方を理解する。また、保育相談支援の基本的な支援を学び、保育士の専門性を生かした支援を考えるとともに、地域の資源の活用や関係機関等との連携・協力についての理解を深める。そして、保育相談支援の実際の過程を学び、事例検討等を通じてその内容や方法を理解する。						
単位認定の要件	到達目標に対し、総合的に評価して60点以上。						
単位認定方法へのフィードバック	期末レポート、授業内提出物としてのミニレポート課題については、評価をした上で返却する。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	ガイダンス、保育相談支援とは、実習等で学んだ保護者との関わりについての省察					
	2	保護者に対する保育相談支援の意義とその背景（1）概要					
	3	保護者に対する保育相談支援の意義とその背景（2）グループ討議・発表					
	4	保育の特性と保育士の専門性を生かした支援（グループ討議・発表を含む）					
	5	保育相談支援の基本①子どもの最善の利益、子どもの成長の喜びの共有、保護者の養育力の向上					
	6	保育相談支援の基本②受容的関わり、自己決定、秘密保持の尊重					
	7	保育相談支援の基本③地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力（1）概要					
	8	保育相談支援の基本③地域の資源の活用と関係機関との連携・協力（2）調査・発表（その1）					
	9	保育相談支援の基本③地域の資源の活用と関係機関との連携・協力（3）調査・発表（その2）					
	10	保育相談支援の実際①保護者支援の進め方と内容					
	11	保育相談支援の実際②保護者支援の方法と技術（1）面接、電話相談					
	12	保育相談支援の実際③保護者支援の方法と技術（2）計画、記録、評価					
	13	児童福祉施設における保育相談支援①保育所における事例検討（その1）					
	14	児童福祉施設における保育相談支援②保育所における事例検討（その2）					
15	児童福祉施設における保育相談支援③保育所以外の施設における事例検討						
教科書・教材	レジュメ、資料を配布する。厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーバル館						
参考書・参考文献等	授業中に適宜紹介する。						
履修上の注意等	ミニ発表、グループ討議や発表、調べ学習、ロールプレイ等も適宜取り入れるので、積極的に授業に参加すること。						

【2396】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
保育実践演習		演習	安川 由貴子	4年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園
				○		○
授業概要		本科目は、保育士資格取得に関わる学習の総まとめにあたる科目であり、保育士として必要な知識・技能が身につけているか確認ができるよう、保育に関わる諸テーマについて、講義、グループ討議、ロールプレイング、事例研究、模擬保育などの方法を組み合わせて実施する。				単位認定の方法とフィードバックの有無
		期末試験	—			
		期末レポート	30%			有
		授業内試験	—			
		授業内提出物	35%			有
		授業内活動	35%			無
		その他	—			
到達目標の分類	◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	≪知識・理解≫ 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	≪汎用的技能≫ コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	≪態度・志向性≫ 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	≪総合・統合≫ 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
当該科目のキーワード	保育者の資質能力	子ども・保護者理解	保育内容の指導力	保育実践の省察		
授業時間外学修の指示	講義前日の予習45分及び当日の復習45分で、各回の到達目標を十分に理解するように努めること。また、各自の不足している部分を重点的に補い、保育者としての実践力と質を高めていけるよう、努力すること。					
授業の到達目標	保育に関する科目横断的な学習能力を習得し、保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行うことができる。また、問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。また、保育士として最小限必要な知識・技能が身につけているか確認することを通して、自己の保育実践を反省し、課題を見出す力を養うとともに、不足している知識・技能を補う。					
単位認定の要件	到達目標に対し、総合的に評価して60点以上。					
単位認定方法へのフィードバック	期末レポート、授業内提出物としてのミニレポート課題は、評価をした上で返却する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	ガイダンス、学習の振り返りと保育士として必要な資質能力				
	2	最近の保育をめぐる状況①子ども・子育て支援新制度について				
	3	最近の保育をめぐる状況②保育所保育指針の改定について				
	4	社会性・対人関係能力（グループ討議と発表）				
	5	子ども理解と子どもへの対応①実習経験から子ども理解を深める（グループ討議と発表）				
	6	子ども理解と子どもへの対応②事例検討、ロールプレイング				
	7	保護者との連携（連絡帳、保育の記録の実践演習）				
	8	家庭、地域との連携①子どもの命や安全を守るために（視聴覚教材）				
	9	家庭、地域との連携②子どもの命や安全を守るために（グループ討議と発表）				
	10	保育内容の指導力①模擬保育及びグループ討議と発表（1班:3歳児）				
	11	保育内容の指導力②模擬保育及びグループ討議と発表（2班:4歳児）				
	12	保育内容の指導力③模擬保育及びグループ討議と発表（3班:5歳児）				
	13	保育内容の指導力④模擬保育及びグループ討議と発表（4班:異年齢児）				
	14	保育内容の指導力⑤模擬保育及びグループ討議と発表（5班:特別な配慮を要する子どもを含む保育）				
	15	保育職の意義や保育者の役割（グループ討議と発表）、確認とまとめ				
教科書・教材	特になし。レジュメ、資料を配布する。					
参考書・参考文献等	厚生労働省編『保育所保育指針解説』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーバル館）					
履修上の注意等	本科目は卒業後も自ら研究・修養をすすめるための基礎ともなることをふまえ、主体的に課題に取り組むよう心がけること。					